

出会う、つながる、つくる

特集①

せんだいメディアテーク館長・鷺田清一氏をゲストにお迎えし、メディアテークの役割や仙台のまちづくりなどについて、郡市長と語り合っていました。

2つの大震災

市長 あけましておめでとうございます。開館20周年の節目を迎えます。せんだいメディアテークですが、開館当時、定禅寺通のケヤキ並木を映し出すガラス張りの建物の誕生に周囲の景色が一変した、そんな衝撃を受けました。広々とした空間やむき出しのチューブという内部の構造も特徴的です。

館長 震災から約50日後の平成23年5月4日に、市民図書館とメディアテークの再開に合わせたイベ

ントで講演するために初めて来館しましたが、入ってまず壁も垂直の柱もないことにびっくり。1階の会場も仕切りがないので、座っている方や立ち見の方、周囲を歩き来ている方がいて、外を歩き交う人も見える。室内なのに公園にいるような感覚がありました。館内も案内していただいたのですが、再開した図書館に貸し出しの行列ができていたのには驚きました。被災一色の生活の中で、暮らしや文化など自分を支えてきた大切なものに本を通じて触れたいと

いう思いなのか、あるいは一人つきりになれる時間が必要だったのか。どちらにせよ、本を読むことが必要とされていたのはびっくりしましたし、うれしかったですね。
市長 音楽も消え、笑いも消えた重苦しい空気の中で、日常を取り戻していくことが次のことを考える大きな力になったのかもしれない。間もなく震災から10年を迎えます。館長は当時どのような思いで仙台・東北をご覧になられていましたか。

館長 その時は、大阪大学の総長を務めていました。卒業式の2週間前でした。津波の映像を見て、パニックになった関西出身の学生もいたと聞きます。彼らが阪神・淡路大震災を経験したのは幼少期ですから、よく覚えていないはず

—せんだいメディアテーク開館20周年



▲せんだいメディアテークのスタッフの皆さんと

災の体験や、復興の過程で壁にぶつかったことなどをお話ししました。被災直後は、皆さん同じ立場で互いに助け合う一体感みたいなものがあります。しかし、次第に被災の程度や置かれた状況により、いろいろな違いが目につくようになって、人々の分断が起こってくる、それぞれの受け止め方の違いが復興の日々の中で広がってくる、さらに復興公営住宅に移るときに地域がばらばらになって、特に高齢者の方はつらい思いをされたことも経験として伝えました。

市長 仙台では、その経験に学び、地域ごとに移転を進めるなど、コミュニティの維持を大切にしました。これも館長はじめ、阪神・淡路大震災を経験された皆さんのお話が生きたのだと思います。

交差点から始まる出会い

館長 阪神・淡路大震災を機に、市民ボランティアが広がったり、被災者の心のケアが注目されたりするなど、新しい文化が立ち上がりました。東日本大震災からも日本全体に広がる新しい文化が生まれてくる。そのときにメディアテークは大事な場所になるだろうと思っているんです。

市長 確かに復旧・復興に向けてのさまざまなアイデアが出てくる現場になりました。

館長 震災後に、市民の目線で震災について記録する「3がつ11にちをわすれないためにセンター」や被災経験を共有し語り合う「考えるテール」などの事業を始めました。震災で全てを失い、本当

に大事なことは何かということを感じ返らざるを得なくなった。地域でつないできた生業や暮らしの文化など、私たちの日常生活を本当の意味で支えてきたものに向き合うことになったと思うんですね。私たちのこれからの生活を支える一番のベースになるものが何なのか、語り合い、考える中で、地域の民話を通してかつての暮らしを語り継いだり、若い世代が農業に挑戦したりする活動がこの現場からじわーっと広がっていったことは大事なことだと思います。



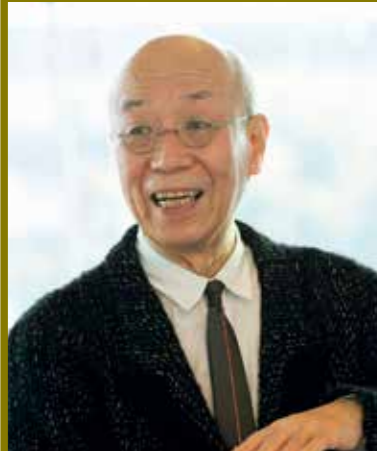
なのに、身体の中に衝撃みたいなものが染み込んでいた。やっぱり災害って、頭で記憶しているだけではなく、身体の中にその記憶が沈殿して残っているのだと感じました。当時は関西でもできることをと思い、被災地に物資が回るように買い物も控えていました。阪神・淡路大震災の体験があったからなのか、誰の指示でもなく、皆が心掛けていたと思います。



◀「せんだいメディアテーク。設計は建築家・伊東豊雄氏。建築専門誌「日経アーキテクチュア」が発表した「平成30年間を代表する建築ランキング」において、総合第1位に選ばれた

せんだいメディアテーク館長
 わしだ きよかず
鷲田 清一氏

1949年（昭和24年）京都市生まれ。哲学者。専門は臨床哲学、倫理学。
 大阪大学総長、京都市立芸術大学理事長・学長を歴任。2013年（平成25年）4月より現職



市長 交差点ですか。

館長 普段、出会うことのない人たちがメディアテークでふっと出会って話し合える、そんな交差点あるいは広場という感じです。震災の時も全国からボランティアに立ち寄ってくれました。今まで無関係だったアーティスト同士がメディアテークという交差点で出会い、ここを拠点に自らネットワークをつくって、被災地に向かいまわりました。アーティストだけでなく、市民の方もみんな得意技を持っていて、いろいろなスキルがある。そんな方たちが、ぶらりと立ち寄ってくたさって、たまたま出会った人と「じゃあ、またメディアテークで何か相談しようか」というふうになることでネットワークが厚くなっていきます。

市長 皆さんの交流が市民力の醸成につながり、難局を乗り越える大きな推進力になったと思います。単に人が行き交うだけでなく、互いに手を携えながら、高いところを目指して登っていく、そういう場でもあるのですね。

アートの果たす役割

館長 明治以降の近代化の中で、共助の力がだんだん失われてきたと思うんですね。以前は医療や介護、防犯などは地域で担っていたが、今は行政がプロの仕事として行うので、我々はサービスの受け手になっている。でも、病気の時に応急処置ができるといった能力をある程度持っていないと、いざというときに大変なことになるということを震災の時に思い知らされました。自分たちのことは自分たちでできる力と、互いに助け合う仕組みを用意しておくことが大切です。

市長 震災後、市民の防災に対する意識の高まりから教訓を継承する取り組みが広がり、市民力を高めることにつながっています。

館長 それはまちの文化としてすぐく大事ですね。メディアテークはアートを通じていろいろな

ろが特徴で、防災や環境などの地域課題にアートの手法でお手伝いしたり、支えたりします。アートといっても絵の具や筆を使うものではなくて、プリコラーージュというんですけれども、身の回りのものを使って新しいものを作っていく。アーティストは、有り合わせのものや、各自の得意技を組み合わせて、これまでにないものを生み出していくのが上手なんです。復興にもそういう面があって、新しい建物を造るだけでなく、みんなのノウハウや得意なものを持ち寄ってつくっていくところがある。特別なものがなくても何かをつくりだすことができるアーティストの技は、生きるための技でもあって、その知恵がメディアテークで交換されるのはすごく良いことだと思います。



▲アート・ロード・プロジェクト（仙台インプログレス）。津波で被害を受けた貞山運河の再生を目指し、アーティストと住民が交流を図りながら、渡し舟や木道を制作するなど、沿岸部の状況に応じて進行するプロジェクト

型コロナウイルスの問題もあり、交差点を通過したくても難しい状況でもあります。



▲ワケあり雑がみ部

人の「森」を育てる

市長 現在、本市ではまちづくりの指針となる新しい総合計画の策定を進めており、まちづくりの理念として「挑戦を続ける、新たな杜の都へ The Green Forest City SENDAI」を掲げました。

館長 Greenに最上級の「estate」を付けているんですね。「自然」「心地よさ」「成長」「進め」という4つの意味を込めています。

館長 多義性のある良い言葉を選ばれたし、最上級がすてきたなと思いますね。私が生まれ育った京都ではお寺などに大木が多く残り、

古いまちならではの安心感を与えてくれます。私たちの時間感覚というのは、せいぜい両親、さかのぼっても祖父父母の代くらいまでですが、大木は何百年、遙かに流れる大木の時間軸の中に自分を据え置くと、もの見方が変わります。巨視的な、長い時間感覚の中でなすべきことを考える、そういうことが感覚的に伝わってくるわけですね。仙台は戦災で古いものが壊されてしまったので、大木に代わるようなものを身近なところでしっかり根付かせることで、安らぎを感じられるまちにしていく、あるいはひ孫の世代まで見通して、なすべきことを考える時間感覚を持てるようにすることが大事だと思います。例えば大学では、現代の問題を考えるのに古代ギリシャの民主制の在り方を考えるなど、とんでもない時間スケールでものを考えます。アーティストも、こんなふうな感覚でものをみるのか、こんなやり方もあるんだなど、僕らが想像しなかったことを教えて

プロジェクトのように感じます。**館長** 海と共に生きる暮らしをどのように回復させていくのかといった大事な地域の課題に対して、フランスを拠点に活躍する世界的なアーティストや京都の学生などが、一緒になって取り組んでいることが面白い。これもこのプロジェクトがなかったら絶対出会わな人たちのネットワークなんです。一番ローカルなものと一番インターナショナルなものが直結しているプロジェクトだと思います。**市長** まさに交差点としてのメディアテークの役割ですね。今は新

